

# 9月例会「屋根裏部屋のマリアたち」

## 映画大学 in 京都参加など夏の報告

たいへん暑かった夏も、各地に豪雨被害をもたらした8月末からの大雨とともに終わろうとしています。

映画関係のニュースとしては、加古川のニッケ社宅でロケのあった「少年H」の封切、「風立ちぬ」の宮崎駿監督の長編映画制作からの引退発表、第37回モントリオール世界映画祭での「利休にたずねよ」(田中光敏監督)の最優秀芸術貢献賞受賞などがありました。

ここから、芸術の秋。神戸や大阪の単館系映画館まで足を延ばせば、日本映画の話題作も目白押しです。駅前再開発のため今月で惜しまれながら閉館する明石東宝を見納めに、「少年H」を観に出かけるのはいかがでしょうか。

### 例会のお知らせ

■名称／第68回例会『屋根裏部屋のマリアたち』

■日時／9月19日(木) ①PM 2:00ー、②PM 4:20ー、③PM 6:40ー

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

### 【例会作品データ】

■タイトル／屋根裏部屋のマリアたち

原題／LES FEMMES DU 6EME ETAGE

■監督・脚本／フィリップ・ル・ゲ

■出演／ファブリス・ルキーニ、サンドリーヌ・キペラン、ナタリア・ベルベケ、カルメン・マウラ、ロラ・ドゥエニャス、ベルタ・オヘア、ヌリア・ソレ、コンチ



ャ・ガラン、アルメル・ドゥギー、ミュリエル・ソルベ、オドレイ・フルーロ、アニー・メルシエ、ミシェル・グレイゼル

■データ／2010年、フランス、1時間46分、ドラマ／コメディ

■解説／フランスのコメディ映画の名匠フィリップ・ル・ゲの最新作。

1962年、パリ。株式ブローカーのジャン＝ルイ・ジュベールは、妻や子供たちと堅実な、しかし別の見方をすると退屈な日々を送っていた。だが、同じ建物の6階に6人のスペイン人家政婦たちが引っ越してきたことから彼の生活は一変する。

軍事政権が支配する故郷を離れ、異国で懸命に働くスペイン人メイドたちに、次第に共感と親しみを寄せるジャン＝ルイは、やがて機知に富んだ美しいマリアに魅かれてゆく。そんな夫の変化に無頓着な妻は、

彼と顧客の未亡人との浮気を疑い、夫を部屋から追い出してしまう。こうしてその夜から、ジャン＝ルイはメイドたちと同じ屋根裏で一人暮らしを始める。それは彼に今まで味わったことのない自由を満喫させることになる。

監督のル・ゲは子供の頃にスペイン人のメイドと過ごした経験がこの映画のもとになっていると語っているが、その思い出は当時を忠実に再現した美術や衣装によって作り出されたノスタルジックな雰囲気大いに反映されている。

## 映画大学 in 京都に参加して

京都が実家である私にとって、宿泊費が浮き母親とも会う時間がとれたので、開催地的に今年はラッキーだなあと思い、3日間のうち2日目と3日目と参加しました。

私が一番期待していたのは「**ディア・ピョンヤン**」「**かくのくに**」の監督をされた**ヤン・ヨンヒ**さんでした。以前にラジオでインタビューに答えられていたものを聴き、ぜひとももう一度ヤン・ヨンヒさんの話が聴きたいと思っていたからです。それは私が在日韓国人3世であるから、どうしても在日の方の活動にアンテナを張っているからだと思います。ハキハキと自分の意見を話されて、益々今後の活躍を期待しました。

また、シネマクラブの会員の方と一緒に、ヤン・ヨンヒ監督の作品を観たいなあと思いました。(せん)

## 今思うことー昭和40年代の東映まんがまつりー

このニュースの編集時に、スタジオ・ジブリの宮崎駿監督の引退報道があった。紙面に余裕があるので、その時、思ったことを書いてみる。

私にとって、宮崎アニメは、幼い頃に夏休みの東映まんがまつりなどで観た「**太陽の王子ホルスの大冒険**」、「**わんぱく王子の大蛇退治**」、「**パンダコパンダ**」である。今でもその時の映画館のようすを思い出すことができる。こどもながらにテレビアニメとは違った良質の品のある物語を見せてもらっているという興奮があった。

その後、宮崎駿や高畑勲らの東映動画スタジオのス

タッフは「**アルプスの少女ハイジ**」などテレビの世界に活躍の場を移し、その主流は「**風の谷のナウシカ**」を経てスタジオ・ジブリを設立している。

今、振り返ると、こどもの頃に、はじめにあげた3つのアニメ作品を観ていたことは、心の財産になっている。

今、アニメーションがオトナのものになってきている。こどもがワクワクする良質の作品を生み出すクリエイターが育ってほしいし、作品を広く上映すべきである。

現在の宮崎アニメの終焉は、現在のオトナにとって惜しいが、次の世代のこどものための作品を生み出す世の中のためには、良いことかもしれない。わかりにくい理由だが、こんなことを思った。

こどもの頃に、ナマの東映まんがと東宝のゴジラを観ていたのだから、今から振り返ると、何と贅沢なことであったか。(ハインリッヒ)

## 前回例会の報告

7月17日の例会では、フランス映画『**最強のふたり**』を鑑賞しました。

フランス映画の中でもわかりやすい作品で、人生の価値や友情を考えさせられる作品で、受け入れやすい名作でした。参加者からも作品に対して好評でした。参加者が少し少なかったのは残念でしたが、今後、より多くの鑑賞者を期待します。

参加会員 116 人。

## ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

**加古川シネマクラブ** 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 168 人 (7月17日現在)